

学校教育目標	豊かな感性、たくましい心と体、自ら学ぶ意欲をもつ子どもの育成
育成を目指す資質・能力	言語能力(表現力・コミュニケーション能力)、問題発見・解決能力

児童生徒の課題	学力状況について	学習状況について
	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 6年生の全国学力・学習状況調査では国語・算数・理科全て全国・県の平均値を上回った。 5年生の県の学力定着状況調査では国語・算数・理科全て全国・県の平均値を上回った。 4年生は単元末テストの結果の平均値が「80点以上が80%」に届いていない。 <p>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習規律の確立が学級によって少し差がある。語先後礼等、小中一貫教育で確認した取組の徹底を継続している。 発言力が弱く、自分の意見を言えない傾向がある。 読書量が少なく、学校評価アンケートでも「進んで読書をしている」と答えた児童は76.7%とアンケート中最も低い状況である。 	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 6年生は学習に対して意欲的である。5年生は、学習規律の確立が整ってきており、向上している。学年により格差があることが課題。 学校評価アンケートでは「規律順守」94.5%、「ノートの活用」95.3%、「家庭学習」96.8%という結果だった。全校的に算数が苦手な傾向が依然として続いている。
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 1時間完結型の授業を全教職員が意識して行っている。 国語と算数では1時間に1回はペア・グループ学習に取り組ませている。まだ自分の意見を言えない傾向があるので、今後も継続していく。 自分の考えをもたせ、考える活動を継続して取り組む。 <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習規律の確立については、徐々に出来ているが継続していく。 読書量が少ないので読書活動に進んで取り組ませる。 習熟度別の学習がなかなか進んでいない。個別指導については、時間の捻出が難しい。 授業でICT機器を活用することにどの教員も進んで取り組んでいる。 	

学力に関する達成指標	
・単元末テスト(国・算)において80点以上の児童を80%以上にする。40点未満の児童を7%以下にする。	
・学校評価アンケートで「授業がよく分かる」と答える児童の割合を90%以上にする。	
・3年生以上の一人1台端末の家庭への週末持ち帰りを100%にする。	

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>(授業改善テーマ) 自ら考え、伝え合う子どもの育成～思考を促す発問や課題の提示の工夫～ (授業改善の重点) ①課題とまとめが連動した、問題解決的な授業の推進 ②ペアやグループ学習を活用した対話的な授業の推進 ③ICT機器を活用した授業の推進</p>	
	<p>〈取組内容〉</p> <p>①めあてと振り返り、課題とまとめ、が連動する分かりやすい授業を行う。 ・思考を促す課題や発問の設定(ゴールをイメージした課題の設定) ・学習意欲が継続する課題の設定</p> <p>②分かりやすい板書にする(構造化)、ノートの一体化。</p> <p>③生徒指導の3機能をいかした、児童が主体的に取り組める授業を行う。 ・学習規律の確立。(自己存在感) ・自分の考えをもつ。自分の考えを書く。(自己決定の場) ・ペアトークやグループトークの質の向上。(共感的人間関係づくり)</p> <p>④ICT機器を活用して意見交換や表現を行う。また家庭学習にICT機器を活用する。</p> <p>⑤学校図書館の蔵書を使って調べ学習に取り組ませる。読書活動の充実。</p>	<p>〈家庭・地域の取組内容〉</p> <p>①保護者と連携した家庭学習。 ②ノーメディアデー(水)の徹底。 ③読書活動の充実。 ④「すぐーる」による学校情報の発信。 ⑤学校ホームページの工夫による学習指導・生活指導の啓発。</p>
	<p>〈取組指標〉</p> <p>・校内研修の充実 ・互見授業の実施(全員) ・小中一貫教育の取組。(年3回の植田南中学校区小中合同研修会の実施。) ・思考を促す課題や発問の工夫を行う。 ・自分の考えをノート等に書ける児童の育成。 ・毎時間1回は、ペアやグループ学習を行って意見交換をする。 ・ICT機器の使用を充実させる。一人1台端末の持ち帰りは状況見ながら行う。 ・授業で読書活動の時間を設ける。学校図書館利用の回数や読書数を増やす。</p>	<p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <p>・学期に1回、家庭学習調査を行い、家庭学習の取組状況を把握する取組を継続する。 ・学級懇談会や学年通信等を通して家庭と連携する。 ・「すぐーる」やHPで学校便りを発信したり、アンケート結果を知らせ、協力を呼びかける。 ・HPに学習・生活面で教育情報の発信をする。</p>
	<p>〈検証指標〉</p> <p>・互見授業の実施率を100%にする。「他学年の授業を1回以上は参観する」を100%にする。 ・こどもによる学校評価アンケートにおいて「学校の授業がよく分かる」を95%以上にする。 ・こどもによる学校評価アンケートにおいて「授業中に課題やまとめをノートにきちんと書いている」で達成率年間95%以上を継続する。 ・職員の自己評価の「基礎・基本の学力の定着と向上、低学力層の底上げを図っている」で100%を目指す。 ・図書館の蔵書を使っての調べ学習を積極的に行う。 ・水曜日のノーメディアデーの取組を徹底する。</p>	<p>〈家庭・地域の検証指標〉</p> <p>・保護者による学校評価アンケートにおいて「ゲームやテレビの時間を守る」を60%以上にする。 ・「読む力、書く力を身に付けるため、読書などに取組、文字に親しんでいる」を50%以上にする。</p>
【授業改善以外の学力向上の取組】		
<p>①生活のきまりを守る。規範意識の高揚。(小中一貫教育と連動した教育活動) ②ノーメディアデーの取組。(読書活動の充実による、読む力の向上) ③基礎・基本の学力を定着するための家庭学習の工夫。</p>		